

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 29 年 5 月 12 日現在

機関番号：13301

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2013～2016

課題番号：25360008

研究課題名(和文) 国家統治拡大と跨境少数民族の生活経験の変化 - タイと中国のラフ族の比較研究

研究課題名(英文) Changes in the Lahu lives against increasing Thai and Chinese governmental controls

研究代表者

西本 陽一 (Nishimoto, Yoichi)

金沢大学・人間科学系・教授

研究者番号：00362012

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,800,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、東南アジア大陸部北部から中国西南地方の山地帯に居住する少数民族ラフ族のキリスト教徒および伝統派集団を対象として、国境を跨いで暮らしている跨境民族の生活と生活経験とが、タイと中国の中央政府による辺境への統治拡大という状況の中で、いかに変化してきたかを、フィールドワークと民族語による聞き取りから明らかにした。同じ名前の民族であっても、その生活変化と生活経験とは、国家(タイ・中国)および宗教(世界宗教・伝統宗教)という関数の違いによって、異なった結果が見られることが明らかになった。

研究成果の概要(英文)： Taking Lahu people, who are living in a mountainous areas of Upper Southeast Asia and Southwest China, this study aimed to elucidate what changes Lahu in Thailand and China have undergone and what life-experiences these different groups of Lahu have about the change in the context of increasing governmental controls of Thai and Chinese central governments. The study also took into consideration of the influences by religions; Christianity and Lahu traditional religion. The study reveals that, although both these groups refer themselves by the same term "Lahu," the changes they have experienced are of quite different kinds and so are their consciousness about their historical experiences.

研究分野：文化人類学

キーワード：少数民族 宗教 タイ 中国 ラフ族

1. 研究開始当初の背景

比較を方法論の中心としてきた文化人類学でも、これまで比較は調査対象社会と調査者の属する社会との間で行なわれることが普通であった。本研究は、異なる国家コンテキストに置かれた同じ民族を研究対象に据えることにより、それぞれの国における少数民族住民の生活経験の違いを浮かび上げ、それがさらにそれぞれの国家のあり方の違いまでも照射することを目指す。

ラフ族が居住してきた、東南アジア大陸部北部から中国西南地方にかけて広がる山地帯(以下「対象地域」と呼ぶ)は、18世紀半ばより大きくその性格を変えてきた。それ以前、「対象地域」では、地域の地理的な環境に人間が適応する形で、低地民族(盆地のタイ系民族等)とさまざまな山地少数民族とが住み分けを行なう一方で、王朝や国家は「対象地域」の外側に存在する勢力であり、「対象地域」に直接的な影響をおよぼすことはまれであった。しかし、欧米植民地勢力が「対象地域」へ侵出するなかで、中国やタイ(シヤム)などの現地政体は辺境地帯への直接支配を強化する努力を開始する。特に20世紀半ば以降は、各国家の周辺に居住する少数民族の生活は、国家とその政策に大きく左右されるようになった。換言すれば、前近代において地理環境を基礎としていた対象地域の民族間関係は、国家的なコンテキストにより大きく規定されるようになり、低地政体による国家周辺部への統治拡大の結果、過去に彼[女]らが享受できていた移動の自由や独立性は大きく制限されるようになった。焼畑禁止・ケシ栽培禁止・定住促進などの国家政策により、現代の山地少数民族は伝統的な生活様式の急激かつ大きな変化を余儀なくされている。自らの「国をもたない」(山地少数民族住民からしばしば聞かれる言葉)山地少数民族の生活は、中国、ミャンマー、タイなどの近代国家の領域内で生きているゆえに、国家的な社会変化や政策に大きく規定されるようになったのである。

研究代表者は1995年以来、タイ北部に居住するラフ族のキリスト教徒および伝統派集団を対象に、フィールドワークを通して、宗教を異にする両集団の宗教変化と社会的経験を研究してきた。タイ国の山地少数民族社会は、1950年代までの放任主義、60年代からの国家による山地民政政策開始、80年代からの中央政府による実質統治の拡大によって、大きな変化を被ってきた。タイ政府による影響と圧迫とが強まるなかで、宗教を異にする両集団が、自らが直面する苦境をいかに認識し、公的な抵抗が不可能な状況下で、苦境に宗教・儀礼的にどう対応してきたかという問題を中心に調査研究を継続していた。

同時に研究代表者は2006年より中国雲南省のラフ族村落において、フィールドワークによる調査研究を開始していた。そこから明らかになったのは、中国雲南省のいずれのラ

フ族村落も1960年代前半の集団化政策のなかで、かつて住んでいた高地から低地への移住を命じられ、焼畑農業を中心とした経済から水田耕作を中心とした経済へと生業転換したこと、文化大革命期には、民族の伝統や宗教の多くの部分が「封建的」「老迷信」などとされ弾圧を受けたが、1980年代以降の改革開放期に到って、実質的に自由経済が広がるとともに、民族の文化伝統の復興と見直しが始まっているということであった。これらは中国周辺社会に居住する非漢族系の少数民族が、国家規模の社会・政策変化によって被った影響である。

このような観点に立ち、タイと中国という国家コンテキストにおける山地少数民族の生活変化とその認識をテーマに研究を進めたが、そこからさらに明らかになったのは、中華人民共和国成立(1949年)や集団化の時代(1950~70年代)に多くのラフ族住民が国境を越えてミャンマーやタイへと逃れたこと、中国、ミャンマー、タイに暮らすラフ族住民の間には、現在も往来や交流が行なわれているということであった。つまり「自らの国をもたない」少数民族住民は、当初研究代表者がもっていた認識と異なり、国家や国境についてまったく違った認識を持っていたのである。換言すれば、彼[女]たちにとって、自分たちを取り巻く環境世界は、タイや中国などの国家的な世界のみならず、国境を越えて東南アジア大陸部北部から中国西南地方へと広がる山地世界なのであった。

跨境少数民族の生活経験の理解のためには、タイや中国などひとつの国家的な枠組みのなかでは不十分なことが痛感された結果、山地世界(「対象地域」と国家コンテキストを複合的に捉える本課題研究を開始するに到った。

2. 研究の目的

上記の「研究の背景」にもとづき、本研究は以下の Research Questions に答えることを「研究の目的」として実施された。

1) 地理環境的コンテキスト(前近代的コンテキスト)と国家的コンテキスト(近代的コンテキスト)の複合のなかで、「対象地域」の山地少数民族ラフ族の生活はいかなる変化を被ったか。

2) 2つのコンテキストの変化によって引き起こされた自らの生活変化について、タイと中国に居住するラフ族集団(キリスト教徒集団および伝統派集団)は、どのような認識をもち、変化に対してどのように反応してきたか。

3) 外部要因により引き起こされた生活変化および変化についての認識(生活経験)の違いについて、タイと中国、キリスト教徒と伝統派という関数はどのように関係するか。

3. 研究の方法

以下の3点を軸に、文献調査(タイ語、中

国語、ラフ語、英語、日本語)およびフィールドワークにより、問題を明らかにしようとした。

1) 「対象地域」の社会空間の変容およびタイと中国の統治拡大過程の検討

2) タイおよび中国における各時代の少数民族住民の生活変化についての比較研究

3) 少数民族住民による自らの過去についての語り反映される跨境民族の生活経験の検討

4. 研究成果

以下に示されるとおり、研究成果として、雑誌論文 3 件(ただし は の再掲載)、学会発表 4 件、図書 1 件が挙げられる。いずれも、発信性の高い英語による成果発表である点は評価される。一方で、4 本の国際会議発表ペーパーを専門雑誌に掲載するまでに到っていないのは残念な点である。

雑誌論文 ~ はいずれも、タイのラフ族集団の間で現在見られる音楽について考察している。論文 は、特にタイとミャンマーのキリスト教徒および伝統派ラフ族集団を対象にして、その音楽的状况(音楽およびそれが現われるコンテクスト)を見ることで、キリスト教という大きな装置が周縁的な山地少数民族に与えた影響について検討している。キリスト教会による長期間にわたる影響は、ラフ族集団の音楽的状况に大きな変化を与えたが、新しい西洋音楽調のラフ語歌唱が、伝統派ラフ族集団とは異なるものとしてのキリスト教徒ラフ族というアイデンティティ形成に寄与したと論文 は主張する。

論文 は、同様にタイとミャンマーのキリスト教徒および伝統派ラフ族集団における音楽的状况に焦点を当てている。論文 では、ヴァルター・ベンヤミンの「複製技術時代の音楽」理論を援用し、宗教・儀礼に埋め込まれていた改宗前のキリスト教徒ラフ族集団の音楽的状况が、改宗後には、アウラを失い、宗教・儀礼的文脈から切り離されたポータブルな音楽的な要素を強めていると指摘している。

論文 ~ とともに、山地少数民族社会が置かれた「対象地域」の外側にあり、外側から変化を強いる勢力として、国家の代わりにキリスト教という制度を取り上げている。これは、タイや中国などの中央政府が国家の周辺部に統治を拡大する前に、宣教師を通してキリスト教が「対象地域」にもたらされ、山地少数民族社会に大きな変化をもたらしたという観点にもとづくものである。変化を強いる大きな外部勢力として、タイや中国などの国家の他に、キリスト教と仏教という世界宗教を分析に含めるこの視点は、新規申請科研課題に引き継がれている。

学会発表 はいずれも 20 ページ近い原稿が用意された未刊論文であり、仏教国タイと無神論を(公的には)信奉する中国において、プロテスタント・ラフ族集団は、戦後の

社会変化をいかに生き、いかなる生活経験を抱いているかを検討したものである。

学会発表 は、タイと中国それぞれの国家的コンテクスト、戦後の社会変化および民族政策の変遷を記述した後で、タイと中国という非キリスト教国家でキリスト教徒ラフ族がいかに暮らしているかを比較したものである。結論として、タイにおいては、仏教徒タイ人との対比により、キリスト教徒・伝統派の両方において同様に「タイ人でないラフ人」というアイデンティティが形成された一方で、中国において漢族とラフ族との民族意識のバウンダリーはより曖昧であった。しかし、伝統派ラフ族がしばしば自らを「ラフ人であり中国人」と認識するのに対して、長く抑圧されてきたキリスト教を信奉するキリスト教徒ラフ族集団は、自らと漢族との間に民族意識的なバウンダリーを作り、「中国人」という意識もより弱いものであることが明らかにになった。

学会発表 は、タイと中国のラフ族集団の比較に立ちながらも、中国のキリスト教徒ラフ族により細かな焦点を当てる。タイと中国のキリスト教徒ラフ族集団を比較すると、多くの類似点と共に、細かな相違点が存在することが分かる。なかでも「家庭祈禱会」と呼ばれるキリスト教的儀礼については、改宗前の「積徳」儀礼を代替したものである点は共通しているが、「家庭祈禱会」の釈義ややり方の細部に相違点が存在している。この相違点は、タイと中国の国家的な歴史とコンテクストの違いに関係し、その結果、中国のキリスト教徒ラフ族の宗教的状况はタイのそれほどには、より合理的・世界宗教的な性格を発展させてこなかったと論文は結論づける。

学会発表 の要旨は、雑誌論文 にされている。タイ国バンコクで行なわれた国際学会における、招待・基調講演である。

学会発表 は、中国のラフ族の間で 18 世紀から 19 世紀半ばまで見られたカリスマの仏教運動について、ラフ族住民への聞き取りと現地の仏跡調査を通して研究したものである。かつてのラディカルな仏教運動は現在ではほとんど力を失っているが、かつてのカリスマ僧の神秘譚などを語るラフ族住民からは、超自然的な力に対する変わらぬ信仰が見られると同時に、カリスマの類型について現在も同様の観念をもっていることが明らかになった。カルト運動の消滅の一方で、カリスマ信仰は潜在的な形で人々の心の中に生きていと論文は主張する。

以上、総じて言えば、タイと中国という 2 つの国家コンテクストおよびキリスト教徒と伝統派という 2 つの宗教的な要素、つまり、合わせて 4 つの関数を軸に「対象地域」のラフ族の生活経験を研究する目的で始められた本研究であったが、対象の広さゆえに、これら全てをカバーするような総合的報告書を刊行するには到らなかった。その一方で、4 つの関数のいくつかを組み合わせた個別事

例については(未刊のものを含めて)いくつかの論文を作成することが出来た点、全て英文であった点は評価できる点である。本研究をより発展させる機会を得られることを望む。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計3件)

Nishimoto, Yoichi. 2015 "Emergence of Lahu Pop and the Formation of Christian Lahu Identity: Ethnic Music as a Cultural Resource" *Waarasaan Sangkhommasaat* 26(2): 147-169.(査読なし)

Nishimoto, Yoichi. 2015 "Emergence of Lahu Pop and the Formation of Christian Lahu Identity: Ethnic Music as a Cultural Resource" In Yoichi Nishimoto ed. 2015 *Report of the International Workshop "Ethnic Music as a Cultural Resource."* Kanazawa: Kanazawa University, pp.1-12.(査読なし)

Nishimoto, Yoichi. 2014 "Mechanical Reproduction and the Development of Popular Music among an Ethnic Minority: Cases of Traditionalist and Christian Lahu in the Thai-Myanmar Borderlands" *Proceedings of the Asian Conference on Arts and Culture 2014 (ACAC 2014), June 12-13, 2014 at Srinakharinwirot University, Bangkok, Thailand*, pp.39-51.(査読なし)

[学会発表](計3件)

Nishimoto, Yoichi. 2014 "Being Christian Minority in China: Case of the Protestant Lahu in Yunnan" Paper presented at the 2014 Annual Conference of the East Asian Anthropological Association, 14-16 November, 2014, Yeungnam University, Gyeongsan, South Korea. (19 pages)

Nishimoto, Yoichi. 2014 "Christian Ethnic Minority in Non-Christian States: The Protestant Lahu in Thailand and China" Paper presented at the 12th International Conference on Thai Studies, April 21-24, University of Sydney, Australia. (18 pages)

Nishimoto, Yoichi. 2014 "Mechanical Reproduction and the Development of Popular Music among an Ethnic Minority: Cases of Traditionalist and Christian Lahu in the Thai-Myanmar Borderlands" A paper presented at

the Asian Conference on Arts and Culture 2014 (ACAC 2014), June 12-13, 2014 at Srinakharinwirot University, Bangkok, Thailand. (招待・基調講演)

Nishimoto, Yoichi. 2013 "Cult of "Fu" or Living Buddhas among the Lahu People in Yunnan, China: Surviving Beliefs of Supernatural Powers" Paper presented at the East Asian Anthropological Association Meeting, 15-17 November, 2013, Xiamen University, China. (15 pages).

[図書](計1件)

Nishimoto, Yoichi ed. 2015 *Report of the International Workshop "Ethnic Music as a Cultural Resource."* Kanazawa: Kanazawa University. (40 pages).

6. 研究組織

(1)研究代表者

西本 陽一 (Nishimoto, Yoichi)

金沢大学・人間科学系・教授

研究者番号: 00362012